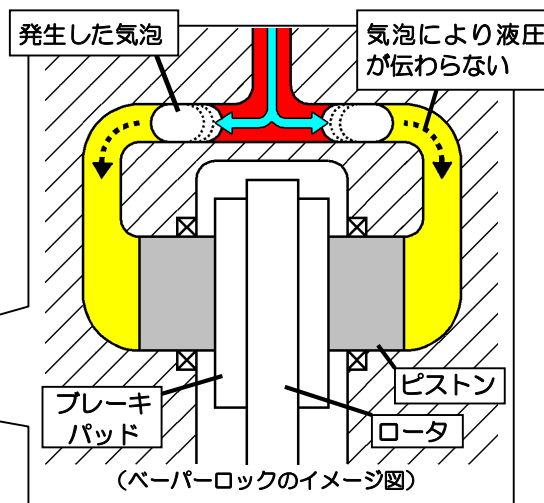
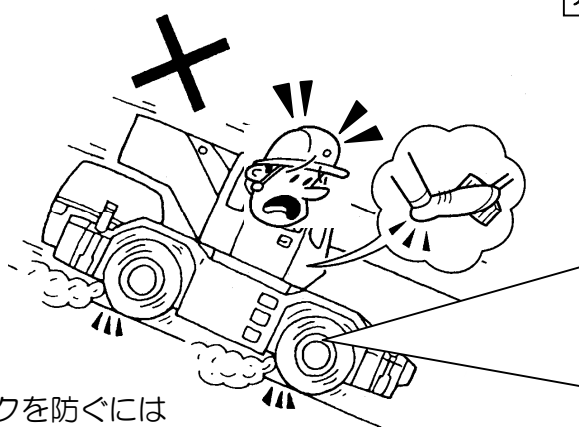


ベーパーロックの防止について

ラフテレーンクレーンは一般車と違い、常に重量物を乗せているのと同じ状態になっていることを認識し、安全運転をする必要があります。特に長い下り坂でブレーキを多用すると、ブレーキの過熱によってブレーキ機構内のブレーキフルード中の水分が気化して気泡となり、ブレーキキャリパ内の液圧がディスクブレーキピストンに伝わらない危険な状態であるベーパーロック現象の発生をまねき、重大な事故につながります。



ベーパーロックを防ぐには

1) 操作上の対応

- ・下り坂走行ではエンジンブレーキ、排気ブレーキを併用（リターダ装着車はリターダも併用）し、出来るだけ低速で走行し、ブレーキの使用を出来るだけ少なくすることが大切です。ブレーキペダルから足を離せないような乗りかたは全く無謀な運転といえます。
- ・サービスブレーキの効きに異常を感じたら、安全な場所に車両を停止させ、ブレーキを冷却させる。この時、パーキングブレーキを作動させ、輪留めをしてサービスブレーキは解放させる。
- ・連行運転では先導車両等は、クレーン車両のペースを優先しての連行運転を心がける必要があります。クレーン車両が前を行く車両に合わせると、サービスブレーキの多用につながります。

2) メンテナンス上の対応

- ・ブレーキフルード量の点検は当然ですが、ブレーキフルードは定期的な交換が必要です。

どんなブレーキフルードも吸湿性があり、長期間使用されたブレーキフルードは、水分の含有量が多くなり水に近づくため沸点が低くなってベーパーロック現象を起こしやすくなってきます。

また、沸点の低くなったブレーキフルードに沸点の高い新しいブレーキフルードを同じ量混合しても沸点は平均値ではなく、低い方にひっぱられるため、注ぎ足してはならず、必ず全量の交換が必要です。

- ・ブレーキパットの残量、ブレーキの引きずりや、排気ブレーキの効き具合の確認もベーパーロック発生防止の為に重要な点検項目になります。

※ブレーキフルードは当社純正品「ブレーキフルードDOT-4」をご使用下さい。

